



北海道サケネットワーク
ニュースレター 42



2014. 03. 22

平成 25 年度の秋サケ来遊状況

北海道区水産研究所では、毎年、全国の秋サケ来遊数を取り纏めています。このほど、平成 25 年度の結果が公表されました。それに因ると、ここ数年右肩下がりだった来遊数の減少に歯止めがかかり、調査している全ての道県で昨年を上回ったようです。特に、東北大震災による著しい被害を受けた岩手県や宮城県は、前年に比べてそれぞれ 166%と 172%に達しています。また、北海道でも数年ぶりに 4 千万尾を超えました。これらは明るい材料ではありますが、増加した割合はあくまで落ち込んだ昨年と比較した値であり、帰って来た魚の実数はまだまだ盛期におよばない状態です。次年度は被災した年に放流された魚が主群となって帰ることから、今後の動向が注目されます。

科学館情報

昨年の秋に人工受精させたサケの稚魚が成長し、次々に放流される時期になってきました。ここでは、毎年恒例の行事になっている科学館の給餌体験や放流体験等に関する情報を紹介します。何れも科学館のホームページから拝借しました。



左の写真は、豊平川さけ科学館で行なわれた「サケ稚魚の大群に餌をやりよう！」の一場面です。残念ながらこの体験は年 1 回限りで、今年は既に終了しました。中央の写真は、標津サーモン科学館の魚道水槽を群泳するサケ稚魚で、今が見時です。ちなみに当館は展望室を改装し、これまでも増して絶景を楽しめるようになりました。右の写真は、千歳サケのふるさと館で放流体験に参加した方がもらえる“放流記念カード”です。放流体験は、3 月 1 日～5 月 31 日まで行なわれます。お時間のある方は、それぞれ特色が異なる科学館に是非足を運んでみて下さい。

さけますプチ情報

最近、ニジマスを取り巻く情勢が俄に騒がしくなっています。本種は明治以降にアメリカから移入された外来種で、食用や釣りの対象として人気ですが、この先、“指定外来種”に選定されるかもしれません。これは、外来種が生態系へ悪影響を及ぼすことを阻止するためのもので、選定されると野外への放流ができなくなります。しかし、既に定着してしまった種を指定するのは現実的でないとの見方もあり、しばらくは騒がしくなりそうです。

サケネットワーク事務局